

# みんな子どもとの時間を楽しもう

## イクメンのすすめ ~子育てでつながるパパたち~

## イクメン応援ライブ

(2011.2/20)  
NPO法人さめきっずコムシアター主催



かがわ子育て支援県民会議主催の「お父さん応援講座」が、ファシリテーターの有澤陽子さん、玉野久仁子さんをお迎えして市役所にて開催されました。参加したパパ職員達は、カプラ（木の積み木）やボードマップを使ったワークショップをしながら、自分と仕事や家庭との関係性を話し合いました。パパ達は、職場や友人とのプライベートな場でも、子育てや家族のこと、我が子の事を話題にすることはほとんどないので、初めての体験にワクワク。子育てを楽しみ、子育てでつながった喜びが伝わってきました。

今回の講座は、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭・地域での生活との調和）を考えるきっかけにもなりました。仕事の達人であるパパ達が、子どもとの時間を楽しむ達人になる日も近そうです。

育休とってみたい

休みは子どもと一緒に  
お風呂に入ってるよ

風呂は、  
もう一緒に  
入ってないよ

子どもと本を  
読んでるよ



親子でトークとライブを楽しみました。

中村和憲さん（食育アドバイザー、松山市小中PTA連合会会長）は、0歳から20歳の5人の子どものお父さん。どんなに忙しくても、「食卓を囲んで家族そろって食事をする」「子どもと一緒に風呂にはいる。絵本を読む」ことを心がけているそうです。経験をふまえて幅広い視点からメッセージをいただきました。

お父さんは、家庭・仕事・地域の3つの足場を持ちましょう。家庭は生活の原点。家庭と仕事は、まさに車の車輪。さらに、地域の足場があると豊かになるとのこと。わが子の幸せを願うなら、わが子の周りを幸せにすることです。

子育てや家事を直接手伝えなくても、妻に思いやりやいたわりの気持ちを持ち、子どもに対しても「生まれてきてくれてありがとう」と感謝し、それを伝えることが大切です。

トークの合間にピアノの生演奏で自作の歌を披露してくださいました。「ちっちゃなちっちゃな君の手が」「ママになった君へ」は、初めて親になった実感や妻への思いが、温かく心に響きわたりました。

最後に参加したパパから、「これからも子育てで楽しくつながろう」との呼びかけもあり、中村さんから親子で触れ合う活動のアドバイスもいただきました。新しいネットワークが始まりそうです。（\*きっずコム 高橋勝子）

\*今年度、丸亀市つどいの広場の委託を受け、子育て親子ちほっとスペース「コムコムひろば」（乳幼児親子対象の子育てひろば）を開設。中村さんは、平成22年度「男女共同参画ヤングリーダー会議」（内閣府主催）で同じ班メンバーでした。（内閣府発行情報誌「共同参画」2011.2「男性・子どもにとっての男女共同参画」に掲載）



### すてきなお父さん度チェックリスト

- 家族そろっての夕食・団らんまたは外出を週3回はもっていますか。
- 夫婦で、お子さんのこと、子育てのことについてよく話しますか。
- 自分の家族は、なかよく心が通いあっていると思いますか。
- お子さんは、お父さんの帰りをよるこんで迎えてくれますか。
- お子さんとふたりだけで半日、留守番をすることができますか。
- 給料を運ぶ以外に、家庭内であなたの役割や分担もっていますか。
- 妻と、妻の人生の事や生活信条のような、ある程度深い内容での対話がありますか。
- 妻のいいところ、すてきなところがすぐにいえますか。
- 仕事にやりがいを感じ、仕事している自分にある程度の誇りを感じられますか。
- あなたの人生では、仕事・会社関係のことと家庭や地域、旧友のこととの間でつりあい、バランスがとれていますか。  
「父子手帖」汐見稔幸著より

イクメンとは、子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性、または、将来そんな人生を送ろうと考えている男性のこと。イクメンがもっと多くなれば、妻である女性の生き方が、子どもたちの可能性が、家族のあり方が大きく変わっていくはず。そして、社会全体も、もっと豊かに成長していくはずです。



(厚生労働省ホームページより抜粋)  
<http://ikumen-project.jp/index.html>

### おすすめ ハンドブック



子育て期において、父親が子育てに関わることの重要性や、具体的にどう関わるか、職場や仕事との調整をどうするか、の着眼点などの他、「パパ・ママ育休プラス」をはじめ、改正育児・介護休業法に対応した内容です。子育て中の方だけでなく、ワーク・ライフ・バランスを推進したい事業所や支援者にもおすすめです。

(上記、厚生労働省HPからダウンロードできます。)

### 日本女性会議2010きょうと（10/1～3） “ひとりひとりが輝く 色彩あふれる世界へ”

記念講演「自由で豊かなパートナーシップ～ひとりひとりが輝く未来に向けて～」は、弁護士・女性と仕事の未来館館長として活躍中の渥美雅子さんと夫の剛治さん（渥美講談塾長）から、固定的性別役割分担意識にとらわれず心豊かに自分らしく生きてきたご夫妻の楽しい経験談でした。

京都らしい分科会「地域、家庭から地球の明日を考える！心掛けよう環境にやさしい生活」では、グループディスカッションに参加し、市民活動を継続し拡充していくために、人材確保・ネットワークづくり・活動を楽しむことが大切であると確信しました。

伝統を守りつつも絶えず異なる文化や価値観を

今年は、10月14日(金)～16日(日)  
松江市にて開催されます。

「語ろう・紡ごう、“だんだん”の縁を世界へ」  
あなたも参加してみませんか？

取り入れ新たなものを生み出す「進取の気風」に富んだ京都市は、「仕事と生活の調和推進宣言都市」でもあり、国・京都府・経済団体・労働団体とともに、安心して子どもを産み育てられる環境整備に取り組んでいます。

また京都議定書を記念し「DO YOU KYOTO?（環境にいいことしていますか?）」の合い言葉のもと、ライトダウン、京灯ディナー、ノーマイカー、ノーゲーム、ノーテレビなど、市民・学校・事業者・行政が協働した取り組みを行う京都市の地域力に感心させられました。

(ウイングL 西川啓子)